

南城市 デジタル田園都市構想



南城市 デジタル田園都市構想



令和5年10月

編集発行	沖縄県南城市企画部DX推進課 〒901-1495 沖縄県南城市佐敷字新里1870 TEL:098-917-5337 FAX:098-917-5427
------	---

令和5年10月



南城市デジタル田園都市構想とは

人口減少や少子高齢化が進み、力を失っていく地方をデジタル技術の活用によって「地域の個性と豊かさ」を生かしつつ、「都市部に負けない生産性・利便性」と「心豊かな暮らし」「持続可能な環境・社会・経済」の実現によって地方活性化を加速させることを目指し、国が推進している構想が「デジタル田園都市国家構想」です。

「南城市デジタル田園都市構想」とは、国が推進する「デジタル田園都市国家構想」の理念に基づき、本市の地域特性や直面する課題、ニーズ等からテーマ及び実施すべき取り組みを体系的に整理し、「第2次南城市総合計画や「南城ちゃーGANJU CITY 創生戦略」等の最上位計画、「南城市観光計画」や「南城市農業振興アクションプラン」等の分野別個別計画に示されている関連施策の実現をデジタル利活用の観点から支援(地域DXの指標に)するための構想です。



目指す姿と将来ビジョン

本構想を策定するにあたり、目指すまちづくりの姿として「デジタル活用で人にやさしい住みよいまち、また訪れたいまち」を掲げ、「つながる・みたく・ひろがる南城」という将来ビジョンを描きました。

デジタル技術を活用した観光・交通・産業、教育等、様々な分野間の目指す方向性や施策を網羅した構想を策定し、デジタル化によるまちづくりを推進することで、市民の利便性の向上、若者の定住促進、観光振興、各産業の活性化等を図り、市民一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実感できる社会の実現を目指します。



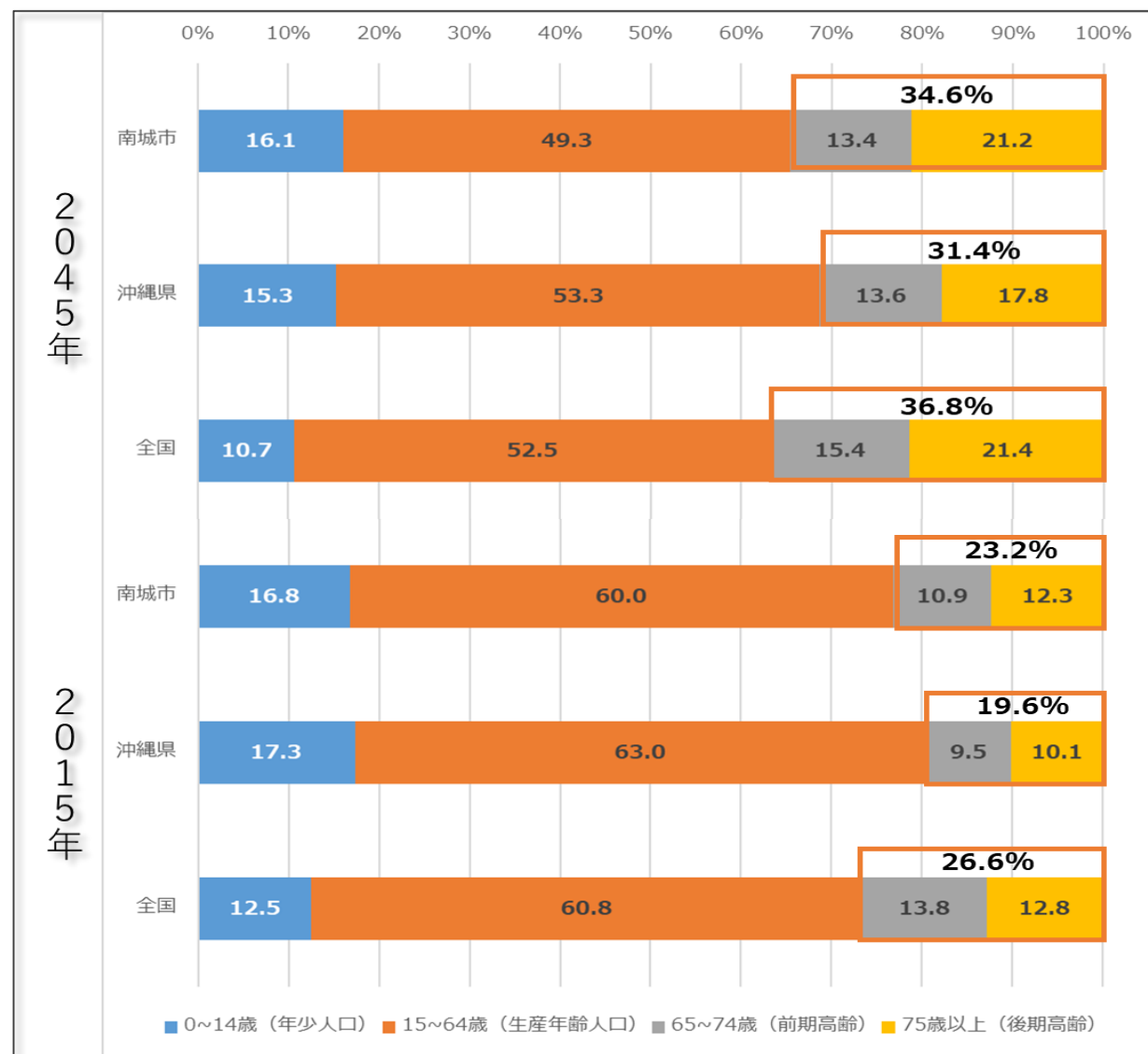


南城市の現状と課題

本市が抱える大きな課題が「将来的な生産年齢人口の減少への対応」です。

本市の人口は2012年以降上昇に転じており、増加傾向を続けていますが、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2035年をピークに減少するとされています。加えて、2045年の高齢者が占める割合は県内平均を超えて全国平均に近づいています。特に、生産年齢人口は5割を下回ってしまい、多くの社会経済活動への影響が懸念されます。

そのため、社会経済活動やサービスを維持するために各分野においてデジタルを活用していくことが必須となっています。

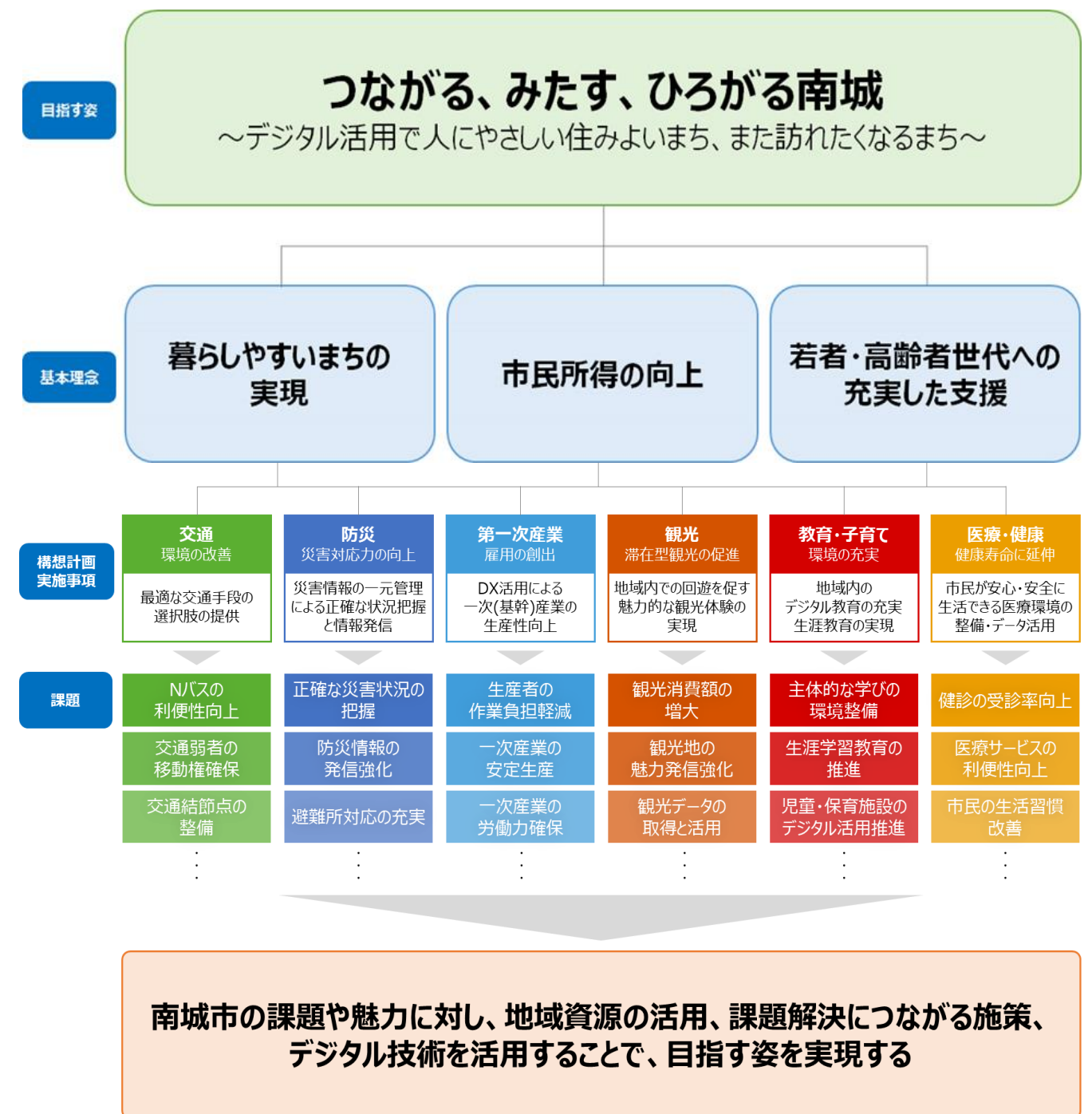


年齢(4区分)別人口比較

分野別の課題

将来ビジョン「つながる・みtas・ひろがる南城」の実現に向け、「1. 暮らしやすいまちの実現」「2. 市民所得の向上」「3. 若者・高齢者世代への充実した支援」を基本理念として掲げました。

さらに、解決に向けて取り組むべき課題を6分野にカテゴリー分けし、それぞれの課題解決につながる施策を打ち出しました。





基本理念(基本目標)

課題(取り組むべきこと)

暮らしやすいまちの実現

交通
最適な交通手段の選択肢の提供

防災
防災情報の一元管理による
正確な状況把握と状況発信

- ・公共交通の利便性向上及び効果的なプロモーションによる利用者増加の実現
- ・公共交通の運行効率の改善
- ・交通弱者への移動権の確保
- ・都市開発に併せた交通結節点の整備
- ・他分野連携(交通×〇〇)

- ・正確な災害状況の把握
- ・防災情報の発信強化
- ・避難所対応の充実

市民所得の向上

第一次産業
DX活用による一次産業の生産性向上

観光
地域内で回遊を促す
魅力的な観光体験の実現

- ・作業負担軽減/作業の自動化・省力化
- ・安定生産の実現
- ・販路拡大
- ・労働力の確保

- ・データ取得の効率化/効果的なEBPMの推進
- ・市内周遊活性化及び新たな移動手段の充実
- ・観光客の安全保護対策の充実
- ・滞在型観光へのシフト/観光消費額の拡大
- ・効果的なプロモーション及び魅力向上による観光来訪者の回復

若者・高齢世代への充実した支援

教育・子育て
地域内のデジタル教育の充実
生涯教育に実現

医療健康・福祉
市民が安心・安全に生活できる
医療環境の整備とデータ活用

- ・ICT活用による教育ツールの充実と教育スキルの向上
- ・継続的な生涯教育機会の提供と学習環境・学習支援の充実
- ・地域における子育て支援と多様な環境にある子どもの学習支援強化
- ・文化財の情報発信の強化、伝統芸能の継承支援強化

- ・市民の生活習慣改善及び各種健診受診率の向上
- ・医療サービスの利便性向上・格差是正
- ・福祉現場の業務効率化
- ・独居高齢者の見守り強化



施策1 公共交通機関との連携及び活用

課題

効果的なプロモーションによるNバス利用者数の増加

内容

- アプリを活用したパーソナライズ情報のプッシュ通知
- AIを用いた渋滞予測情報の配信
- Nバスサイトの充実
- MaaS機能をもった地域アプリの導入

施策2 データに基づく効率的な交通施策の実施

課題

公共交通の運行効率の改善

内容

- AIカメラ、Wi-Fi、観光アプリ等の移動データ収集環境の整備
- エビデンスに基づいた効果的な交通施策の検討・実施
- 取得データの分析・活用できる体制づくり

施策3 新たな交通体系の導入

課題

交通弱者への移動権の確保

内容

- 過疎地エリアを中心とした自家用有償旅客運送の取り組み
- 新たなモビリティ導入による移動手段の確保

施策4 次世代型交通結節点による回遊性の向上

課題

交通結節点の整備・充実

内容

- 那覇空港とのアクセス強化
- 新モビリティの主要拠点化
- Nバス及び既存交通との連動

施策5 データ連携(異分野連携)による付加価値の向上

課題

異分野連携 [交通×〇〇]

内容

- マイナンバーカードを使った取り組みの展開
- 観光客も意識した広域連携で、効率的なサービスの展開



施策1 市民への防災情報発信の強化

課題

正確な災害情報の把握及び防災情報の個別最適化

内容

- カメラ/センサー活用による正確な災害状況把握
- 個別最適化(住む地域や行動履歴に応じた)された防災情報の配信
- 市民がSNSに投稿した情報の収集
- 防災ポータルサイトの多言語化とハザードマップの利活用

施策2 データ利活用による災害対応力強化

課題

災害情報・データの一元管理

内容

- 災害現場からのデータ(映像や画像)を一元管理
- 災害情報や市民からの情報を職員間で共有する仕組みの構築
- 過去の災害情報及び画像データ等のAI分析

施策3 災害対応業務のマニュアル化と避難所開設業務効率化

課題

平常時における災害時対応業務の把握と避難所開設業務の効率化

内容

- 災害時対応業務マニュアルの作成と、いつでも閲覧・確認できる環境づくり
- 避難所の開設・市民への通知の自動化及びマイナンバーカード等の活用による本人確認や受付のシステム化
- AIカメラ等の活用による避難所の現状把握
- 避難所等におけるスマートロックの活用



施策1 作業負担軽減ツール導入サポート

課題
作業負担の軽減、作業の自動化・省力化

- 内容**
- 作業負担軽減ツールの導入
(アシストスーツ、自動栽培ロボット、自動運転耕作機、自動収穫機、IoT×ビニールハウス、自動搾乳機、等)
 - DX導入補助金の活用

施策2 ドローン活用による作業効率化及びスペシャリスト育成

課題
作業負担の軽減、作業の自動化・省力化

- 内容**
- ドローンの導入、活用支援
 - ノウハウ(活用手法や操縦法)を継承できる体制づくり

施策3 データ収集・分析による生産の安定化及びスペシャリスト育成

課題
安定生産の実現

- 内容**
- 第一次産業現場において有効な環境センサーの導入
 - データ収集基盤の整備
 - 環境データ・育成手法・育成状況との関連性分析

施策4 ライブ配信を活用した販路拡大/売れる仕組みの構築

課題
販路拡大による収益拡大・ブランド力向上

- 内容**
- ライブ配信によるオンラインでの商品紹介
 - 視聴・購入データ分析によるマーケティング強化
 - ふるさと納税ラインナップの拡充

施策5 新規就業者に向けたグリーンツーリズムの推進

課題
労働力の確保

- 内容**
- 観光客と事業者とをマッチングするWebプラットフォームの整備
 - パーソナライズされた第一次産業体験プログラムの情報発信
 - 体験から宿泊まで連動した滞在型観光の実現



施策1 効果的なデータ活用による観光満足度の向上及び事業者支援

課題

データ取得の効率化、効果的なEBPMの推進

内容

- AIカメラ、Wi-Fi、Beacon等を活用した人手を介さない効率的な情報取得
- データを活用できる体制の構築(データ活用人材育成含む)
- DX導入補助金の活用(事業者支援)

施策2 パーソナライズされた観光体験の提供

課題

効果的なプロモーション及び魅力向上による観光来訪者の回復、市内周遊活性化、観光客の安全保護対策の充実

内容

- パーソナライズ情報に応じた観光情報の配信、プッシュ通知
- 好みに合わせた動線創出、交通手段の提供
- 位置情報に応じたPUSH型の情報発信

施策3 新たな移動体験価値の創出

課題

新たな移動手段の充実、市内周遊の活性化

内容

- AIデマンド、小型EV、パーソナルモビリティ等の新モビリティの配備
- 観光アプリとNバスの連携
- 交通×XR
- 自動運転による主要観光地の移動

施策4 高度な観光情報発信拠点整備(ワーケーション機能含む)

課題

滞在型観光へのシフト、観光消費額拡大

内容

- XRコンテンツによる新たな観光情報の発信
- 高画質360°映像シアター
- ローカル5Gを活用した高度な観光施策環境の整備(自動運転、ワーケーションによる新ビジネス検討)

施策5 グリーンツーリズムの推進

課題

滞在型観光へのシフト、観光消費額拡大

内容

- 観光アプリと連動したWEBプラットフォームによる観光客と一次産業事業者のマッチング、報酬付き産業体験
- アプリ利用による空き家を活用した宿泊施設の提供

施策6 没入型コンテンツによる観光地魅力強化

課題

観光地の魅力向上による来訪者数の回復

内容

- AR/VRによる観光地の高付加価値化・魅力強化
- AR/音声ARによるコンテンツツーリズムの推進



施策1 小中学生のデジタル活用の更なる推進

課題

ICT活用による教育ツールの充実、教育スキルの向上

内容

- 学習eポータル・校務支援の連携による学習ログを用いた個別最適な学びの場の提供
- 学習動画プラットフォームを活用した授業配信/デジタル教材活用
- タブレットPCの有効活用/地域住民(デジタルに不慣れな高齢者)に学生が教えることによる地域貢献とデジタルデバイド解消

施策2 児童・保育施設・保護者のデジタル活用推進による教育・保育サポート

課題

地域における子育て支援、多様な環境にある子どもの学習支援強化

内容

- 保育施設向け業務支援システム(登降園管理/保護者連絡等)の拡充
- 多様な学習アプリを用いた親しみやすく学びやすい保育幼稚学習教材の提供

施策3 市民が学びやすい学習環境の整備/新たな学びの場の創出

課題

継続的な生涯教育機会の提供、学習環境・学習支援の充実

内容

- 情報発信のためのデジタル環境・サービスの提供
(動画アーカイブ配信、プッシュ型の学習配信サービス等)
- パーソナルデータ(学習ID)を活用したリカレント教育・リスキング環境の整備
- 図書館の時間外開放

施策4 文化・伝統芸能の更なる普及に向けたデジタル環境整備

課題

文化財の情報発信の強化、伝統芸能の継承支援強化

内容

- バーチャルミュージアム/VRを活用した尚巴志等の歴史体験、琉球舞踊等の文化芸能を学べる技術伝承の提供
- 観光アプリ等による文化財データの発信強化による文化・伝統芸能の幅広い世代への普及・浸透

施策5 学校体育施設、社会教育施設の有効活用

課題

予約のシステム化、カギの貸し出し・返却の利便性向上、使用料のキャッシュレス化

内容

- 施設予約システム・スマートロック管理システム導入
- スマートフォンやPC等から予約・申請、暗号キー発行、キャッシュレス決済導入
- その他、公共施設への普及



施策1 健康アプリ導入による市民の健康意識向上

課題

各種健診の受診率向上と市民の生活習慣の改善

内容

- 健康アプリを活用した運動データの可視化、健康ポイント付与による市民の運動習慣促進、健康意識向上
- 日常生活データから脳卒中等のリスク予防を促す
- 地域住民が交流する“健康集いの場”を創出し、健康寿命延伸をサポート

施策2 ICTツール導入による医療サービスの利便性向上・格差是正

課題

医療サービスの利便性向上・格差是正による便利な仕組みづくり

内容

- 過疎地域等における遠隔診療/ドローン服薬配送の環境整備
- 医療機関へのアクセス向上(地域交通やタクシー等を活用し、病院移動中に診察予約を済ませ、病院の待ち時間を短縮)
- 医療MaaS(マルチタスク車両)の利用

施策3 ツール導入による福祉現場の作業負担軽減・独居高齢者見守り強化

課題

介護従事者の業務省力化及び被介護者向けサービスの充実、独居高齢者の見守り体制強化

内容

- 福祉現場へスマートベッド・カメラ・介護ロボット等のツール導入
- 異常発生時に家族や民生員、ケアマネージャーに即座に通知する高齢者見守り体制構築

施策4 デジタルデバインド対策

課題

高齢者の情報格差の是正

内容

- スマートフォン教室の開催
- デジタルサポーターの育成

施策5 引きこもり対策、いきがいづくり、認知症対策

課題

高齢者の集いの場の見直し、認知症に関するデータ収集

内容

- e-スポーツの展開、普及促進、世代間交流
- 認知機能を測定できるICTの導入

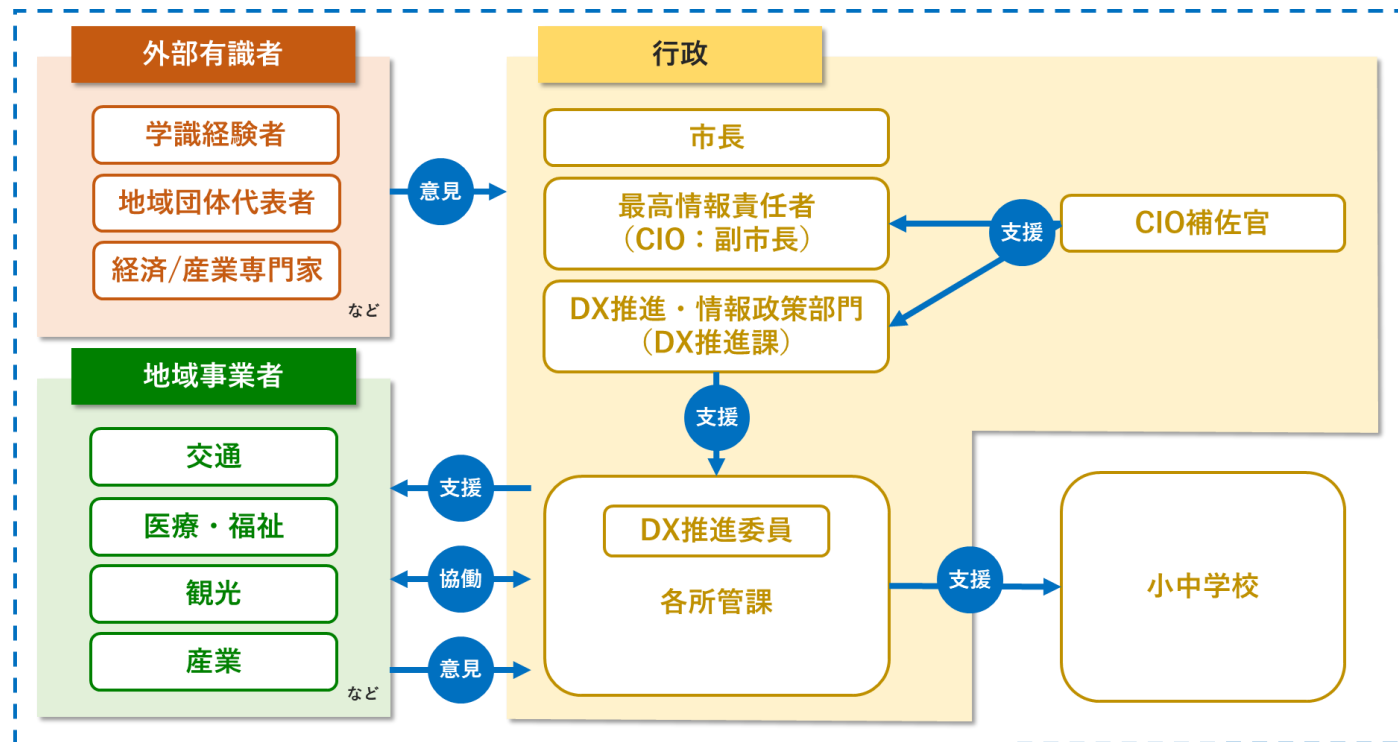


推進体制

本構想で示した各分野のデジタル施策を実施し、その効果を高めるためには、行政だけではなく市民や企業、各種団体等地域全体での連携が重要であるため、施策・サービスの運用段階においても、南城市の各所管課と地域事業者が協働して、施策を導入・提供していきます。

デジタル施策の実行に際しては、施策ごとに必要な推進体制を構築し、推進状況の確認及び実施状況の評価を行うこととします。なお、この推進体制は行政関係者と地域事業者や各種団体、大学等の外部有識者から構成されます。

なお、定期的に個々のデジタル施策の進捗を確認する会議を設け、サービスの検討状況や実施状況を共有し、外部有識者の知見を交えて評価し、その評価をもとにして、施策・サービスの内容についても見直しを行って参ります。

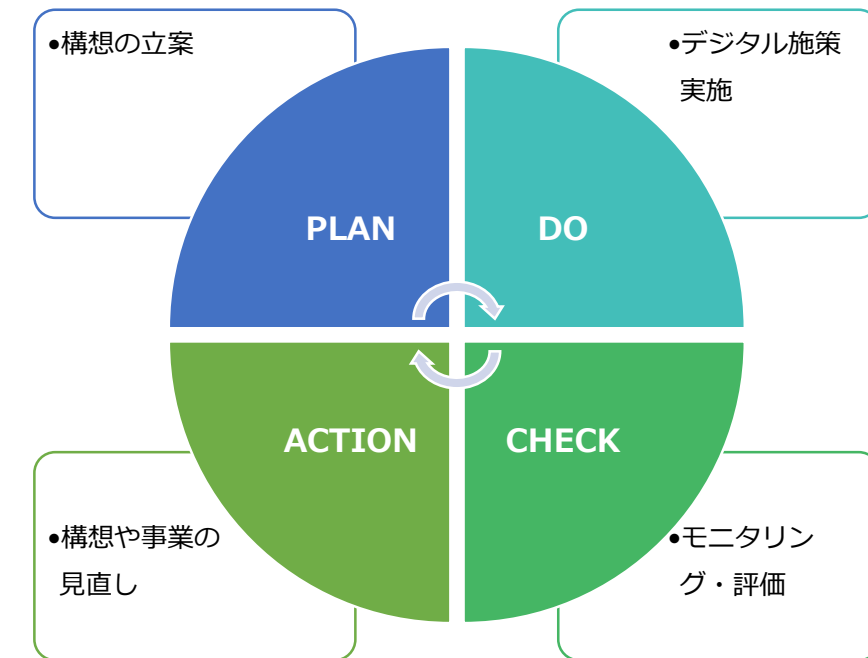


※各施策において必要な推進体制を築く

進捗管理

本構想は、刻々と変化する社会情勢やデジタル技術・サービスの変化に合わせて見直すことを想定しています。そのためには、PDCAサイクルによって進捗管理を行い、実施されるデジタル施策に対して、推進体制によってその進捗や効果を検証する必要があります。

その検証結果を踏まえて、事業や構想そのものを適宜見直し、新たなデジタル事業を実施していくものとします。



令和5年度に策定された本構想は、令和6年度までにデジタル施策の実施状況を把握し、令和7年度に検証と施策の見直しを行います。また、令和8年度には改定されたデジタル施策を実施し、さらに状況を把握し、令和9年度に再び検証と施策の見直しを行うこととします。

令和5年度	令和5～6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
本構想策定	デジタル施策の実施と状況把握	中間検証と施策の見直し	改定デジタル施策の実施と状況把握	検証と施策の見直し